知覚運動論		講義	准教授　中川　剣人	
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコースの選択必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの専門基礎分野科目		科目ナンバリング	11301209 12220209 13312204

１．授業のねらい・概要

知覚は行為の手段であり，行為は知覚の手段である。知覚と行為（運動）は機能的に繋がっており，日常生活においてもスポーツ場面においても，これらを高度に連携させることが，効率的で合目的的な運動行動を遂行するために必要となる。本授業では，まず主に視覚系の感覚情報処理についての基礎理論を学び，さらに知覚運動に関わる学問領域の横断的な解説を交えながら，知覚と運動の機能的連携に対する理解を深めていく。また，実際の学術論文で示された結果を概覧しながら，過去から現在までの研究トピックに触れ，将来に向けたこの分野の展望を考察する。

２．授業の進め方

主にスライド呈示による講義形式で授業を進める。話題にした現象や方法論についての体験的学習（実験）を盛り込みつつ，関連する学術論文を紹介しながら解説を行う。また，毎回の授業中に小テストを実施し，理解度を測る。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．高速移動物体の捕捉運動（野球を例に）
２．眼球光学系と神経生理	10．アスリートの立体視／動作遂行のための視覚情報
３．光の強度と色覚	11．注意と知覚運動
４．視覚系の時空間特性／錯視	12.【トピック】トップサッカー選手の知覚運動システム
５．運動視／知覚行為カップリング	13．知覚運動に関わる脳領域
６．知覚運動行動に係る用語の解説	14．アスリートの知覚運動に関わる脳の特徴
７．ミラーニューロン・運動伝染	15．総復習
８．眼球運動／アスリートの視線	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回までの授業ノートの見直しに 30 分程度，また課題が出された場合はさらに 30 分程度以上の準備学修を要する。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験期間中の同時限内において，解答のポイントや出題の意図について全体説明を行い，個別質問にも応じる。

６．授業における学修の到達目標

感覚系と運動系の情報処理過程について基本的な概念を理解し，あわせて実際の学術論文の構成や論法に親しむ。

７．成績評価の方法･基準

受講態度と参加・活動状況（30%程度），期末試験（70%程度）によって評価する。

８．テキスト･参考文献

「視覚Ｉ―視覚系の構造と初期機能―」（内川惠二・篠森敬三：朝倉書店），「視覚 II―視覚系の中期・高次機能―」（内川惠二・塩入諭：朝倉書店），「現場で活きるスポーツ心理学」（石井源信ほか：杏林書院）を参考図書とする。

９．受講上の留意事項

特になし。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，国立研究機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。